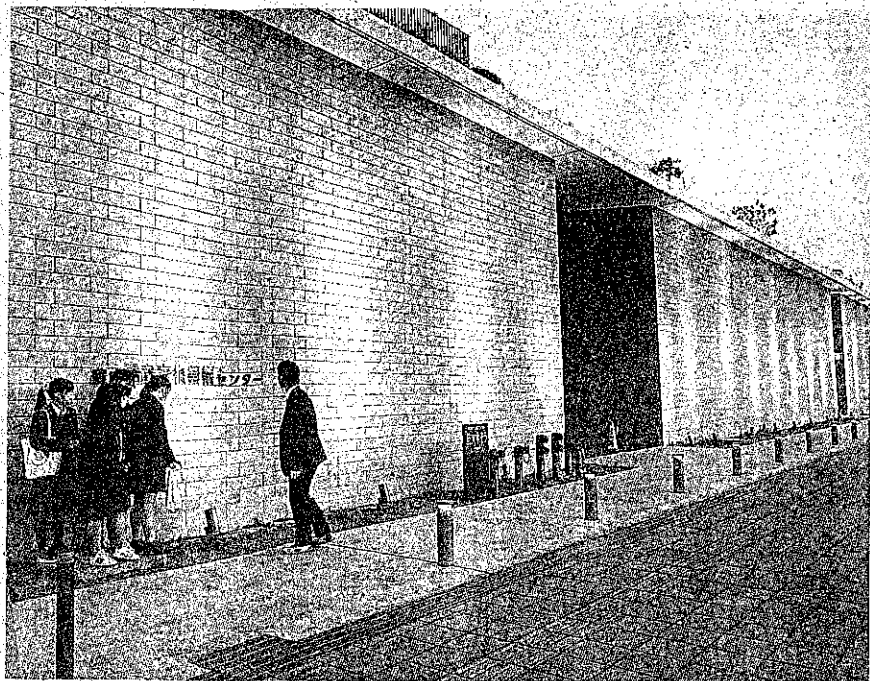




絆は桜色

東日本大震災から11日で12年。被災地へのエールと震災で亡くなった人への鎮魂の思いを込め、豊中市の市立文化芸術センターが12日までの夜間、桜色にライトアップされている。震災直後から東北の被災地支援を続けてきた市社会福祉協議会が企画した。

豊中市は、岩手県の大槌町や陸前高田市などと災害時の相互応援協定を締結している。また、豊中市内にある府立桜塚高校は被災地支援のボランティアをきっかけに、2012年に岩手県立大槌高校と、両校の校章が桜をモチーフにしていることから「さくら協定」を結び、交流を続けている。そこで今回、桜色にライトアップすることにした。



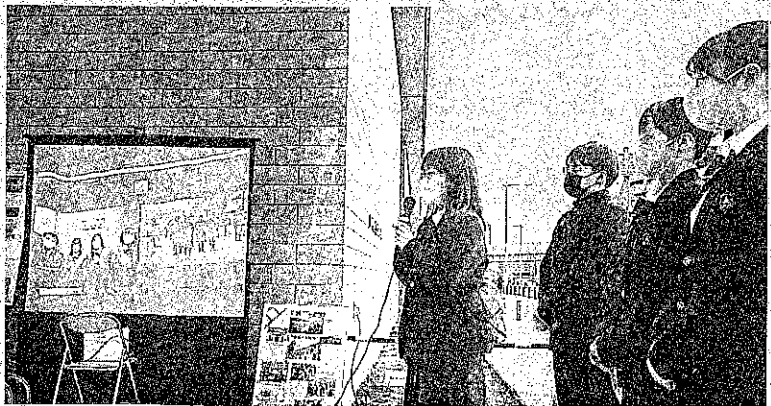
桜色にライトアップされた豊中市立文化芸術センター

豊中、被災地支援の縁 エールと鎮魂ライトアップ

市社協の職員たちが震災後に被災地支援に入った様子などを紹介するパネルが並んだ。式には市社協職員や桜塚高校の生徒らのほか、大槌高校の生徒たちもオンライン会議システム「Zoom」で参加し、全員で黙禱した。

大槌高校の生徒たちが復興の歩みなどを紹介し、桜塚高校の生徒の1人が「修学旅行で大槌高校を訪ねて、またいつか関わられたらと思っていたので、もう一度再会できてうれしかったです」と話した後、一緒にカウンタダウンして点灯した。

12日には同センターで、岩手の特産品などを集めた東北物産展や、「防火・防災フェスティバル」豊中市消防音楽隊45周年記念演奏会（午後1時開演、入場無料、申し込み不要）が開かれる。（瀬戸口和秀）



岩手県立大槌高校の生徒との交流などについて話す府立桜塚高校の生徒（中央）＝いずれも10日、豊中市